

記事内容

- ☆平和行動in沖縄(1~3ページ)
- ☆ジェンダー平等・多様性推進「トップセミナー」/
「男女平等参画社会」実現をめざした要請
- ☆第27回参議院議員選挙
- ☆第7回(最終)回答集計結果
- ☆オルガナイザー研修会(実践編) /
既卒3年以内及び34歳以下の若者対象就職面接会/
埼玉県労働委員会マスコットキャラクター募集!
- ☆8月の行動予定表/こくみん共済coop
- ☆あけぼのビル

～ 戦させんしまち みるくせややがて 嘆くなよ臣下 命どう宝 ～

戦乱の世は終わり 太平の世がやがて来る 嘆くではない諸君 命こそ宝だ

2025平和行動 in 沖縄

6月23日(月)～6月25日(水)に平和4行動のスタートである「平和行動in沖縄」が、那覇文化芸術劇場なはーと大劇場で開催されました。

連合埼玉からは構成組織、地域協議会、女性委員会、青年委員会より16名が参加しました。

6月23日の「連合2025平和オキナワ集会」では、基調講演として「新たな安全保障を目指して!」と題し、衆議院議員の屋良 朝博氏より講演をいただきました。その後の平和式典では、8月に開催する「平和行動in広島」に向けて、連合沖縄会長から連合広島会長へと「連合・平和行動旗(ピースフラッグ)」が引き継がれました。

6月24日のピース・フィールドワークでは、沖縄陸軍病院南風原壕、平和記念公園、ひめゆりの塔・資料館、旧海軍司令部壕などの戦跡を自らの目や肌で感じることで、80年前の戦争の惨劇を深く心に刻みました。

また、「在日米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本的見直しを求める行動」として、国際通りにてデモ行進をおこないました。

今年は沖縄戦終結から80年の節目の年となります。参加者全員でこの平和行動で目の当たりにした戦争の本質、そして実感した平和の大切さを広く伝えていきます。

1日目
(6/23)

■連合2025平和オキナワ集会

と き 15:00～17:00
 場 所 那覇文化芸術劇場なはーと大劇場
 内 容 第1部 講演
 テーマ:「新たな安全保障を目指して!」
 講 師:屋良 朝博氏(衆議院議員)
 第2部 平和式典

2日目
(6/24)

■ピース・フィールドワーク (連合群馬と合同行動)

内 容 南風原文化センター・沖縄陸軍病院南風原壕
 → 平和祈念公園(献花) → ひめゆりの塔・資料館(折り鶴献納) → 旧海軍司令部壕 → 沖縄県庁前県民広場からデモ行進

菊地安希子(UAゼンセン/富士薬品ユニオン)
 後藤 貴俊(JAM埼玉/森田鉄工所労働組合)
 山本 俊介(情報労連/コムシスエンジニアリング労働組合)
 谷ヶ崎 強(情報労連/コムシスエンジニアリング労働組合)
 武田 富夫(運輸労連/全新潟運輸労働組合北関東支部)
 小林 育未(運輸労連/全日通労働組合東京支部)
 福木 孝(川越・西入間地域協議会/本田金属労働組合)
 山北めぐみ(朝霞・東入間地域協議会/日本梱包運輸倉庫労働組合)
 藤野 雅也(比企地域協議会/東松山市職員労働組合)
 家城 悠伍(西部第四地域協議会/ホンダロジスティクス労働組合)
 秋元 正道(西部第四地域協議会/本田技研労働組合埼玉支部)
 堀越 弘宣(執行委員/自治労埼玉県本部)
 秋山 泰余(特別執行委員/本田技研労働組合埼玉支部)
 渡邊友香里(女性委員会/本田技研労働組合研究所支部)
 川田 寛介(青年委員会/関東電気保安協会労働組合)
 矢島 規雄(連合埼玉/副事務局長)



平和オキナワ集会



平和祈念公園

①平和行動に参加したのは何回目ですか？ ②感想

①初めて

②平和行動の一環として沖縄を訪れ、戦跡を巡る中で戦争の悲惨さと平和の尊さを痛感しました。沖縄戦では約20万人が犠牲となり、その多くが民間人で、しかも学徒隊の動員や集団自決など、戦争が人々の心に深い傷を残したことを知り、胸が張り裂けそうでした。それなのに戦後も沖縄には日本の米軍基地の約70%が集中し、住民は今も多くの負担を強いられています。今回の平和オキナワ集会でも、某与党議員による「歴史の書き換え」発言や「米軍関係者による事件・事故」の問題が訴えられており、沖縄が今なお戦争の影響に苦しんでいる現実を改めて認識しました。今後は「命どう宝」という言葉に込められた命の尊厳と平和への願いを胸に、私たちは過去を正しく学び、現在の課題に向き合い、未来に向けて平和を築く責任があると強く感じました。



菊地安希子

①初めて

②今回活動を通して、沖縄戦がどれほど多くの犠牲を出した戦いだったか改めて知ることが出来ました。特に軍人だけではなく多くの沖縄県民が巻き込まれ、延べ20万人以上の命が失われたことに強い衝撃を受けました。見学した中でも特に印象に残っているのは、陸軍病院南風原壕跡です。当時の兵士や看護師、患者たちが過ごした緊張感や恐怖、絶望感が80年たった今でも残っているように感じました。この活動を通して平和の大切さと歴史を学ぶことの意義を強く感じ、これからも二度と同じ悲劇を繰り返さないためにも、戦争の記憶を風化させないようにしていきたいと思いました。今回、初の平和活動の参加となりましたがとても貴重な体験が出来ました。改めて世界平和の大切さを多くの人に広めたいと思います。



山本俊介

①初めて

②平和行動in沖縄に初めて参加させて頂きました。平和オキナワ集会では、日本の新たな安全保障のあり方を真剣に考える必要性を学び、平和式典では、沖縄戦の悲惨な過去を再確認しました。辺野古大浦湾側の工事が着手され、美ら海が破壊される現状、戦後の米軍統治および現在も続く基地問題等、様々な問題を抱える状況を掘り下げて知る事が出来ました。ピースフィールドワークにて、沖縄戦では、地元だけでなく日本各地からも大勢の方が兵隊として召集されていた事を初めて知りました。当時の話を聞き、資料館で写真を見て、本当に辛く泣きそうでした。想像の範疇で捉える事しか出来ませんでしたが、戦争とは残酷なものと改めて実感しました。もし、戦争当時に生まれていたら、自分はどんな運命だったのかと。平和行動in沖縄に参加して、沖縄戦争への理解が深まりました。



武田富夫



折り鶴献納



デモ行進

①2回目

②二度目の平和行動 in 沖縄に参加し、前回以上の深い学びを得ました。ひめゆり平和祈念資料館では、学徒隊の遺品や証言に改めて胸を打たれた一方で、今回は旧陸軍病院跡を訪れ、その惨状の凄まじさに言葉を失いました。そこに残る血痕や手術台の跡は、戦争が人間にもたらす痛ましい現実を如実に物語っていました。美しい海や文化の裏側に刻まれた歴史の重みを肌で感じ、「平和を次世代へつなぐ責任」をこれまで以上に強く自覚しました。共済組合員として、自分にできる行動を地道に続けていく決意を新たにできた貴重な機会でした。



後藤貴俊

①初めて

②平和行動in沖縄に初めて参加し、今までレジャーや観光でしか訪れたことがありませんでしたが、今回の平和学習で戦争の跡地を訪れ、沖縄の戦争に触れ改めて戦争の悲惨さと平和の尊さを深く実感しました。ひめゆりの塔では若い命が失われた事実が胸に締め付けられる思いでした。平和祈念公園でも公園内の平和の礎に刻まれた多くの戦没者の名前を見て、二度と同じ過ちを繰り返してはいけないと決意を新たにするとともに、沖縄の基地問題についても考えさせられ、米軍基地の整理・縮小や日米地位協定の見直しを求める声の重要性を実感しました。今後も平和を願い、学んで決して風化させてはいけないと身をもって感じることでできた平和行動でした。



谷ヶ崎強

①初めて

②沖縄平和行動に参加し、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて実感しました。日々の生活や仕事に追われていると、平和の意味を深く考える機会は少なくなりがちですが、実際に沖縄の地を訪れ、戦跡や資料館を見学し、語り部の方の話を直接聞く中で、戦争の記憶が決して過去のものではないことに気づかされました。特に印象的だったのはひめゆりの塔での話です。若い女学生たちが看護要員として動員され、過酷な環境の中で命を落としていった現実には、胸が締め付けられる思いでした。また、沖縄戦では住民も巻き込まれ、多くの犠牲が出たことを改めて学びました。今の私たちがこうして安心して暮らせるのは、二度と同じ過ちを繰り返さないという強い思いと、平和を願う多くの人の努力があるからです。社会人として、この経験を仕事や地域活動の中でも活かし、次の世代に語り継いでいく責任を感じました。



小林育未

①初めて

②これまでの沖縄のイメージは「風光明媚な南国の観光地」というものでしたが、観光客や地元の方が家族・友人と遊んでいるビーチも80年前には地獄そのものの凄惨な光景が広がっていたということを知り、大きな衝撃を受けました。猖獗を極めた沖縄戦では、たった約3か月の間で実に20万人の方が戦死したと聞き、いかに戦争とは醜く悲惨なものなのかと痛感しました。そして、過去にこれほどの惨劇を背負わせてもなお、沖縄への軍拡を進める政府、沖縄へ負担を強いる日米地位協定などの問題があることへ、私たちは平和を願う者として声を挙げ続けていく必要があります。平和祈念公園の慰霊碑から見た沖縄の海はどこまでも青く澄んだ美しい海でした。この海を血で染めるようなことは二度とあってはならない、と強く心に誓った3日間でした。



福木孝

①2回目

②戦後80年という節目の年に、ひめゆりの塔と南風原壕群20号を訪れました。ひめゆりの塔では、多くの若い学徒が犠牲になった事実に胸が締めつけられました。平和祈念資料館で見た遺品や手記の一つひとつに、それぞれの人生が確かに存在していたことを思い知らされました。また、南風原壕群20号では、湿気と暗闇の中に潜む恐怖と緊張感を体験し、ここで生活し、治療を続けていた人々の苦労に想像を絶するものを感じました。「生き残ったことに罪悪感を抱えて生きる人がいる」という言葉が今も心に残っています。戦争を知らない世代である私たちこそ、戦争の記憶を受け継ぎ、平和の意義を語り継いでいかなければならないと強く感じました。今回の平和行動を通じて、何気ない日常がどれほど尊く、守るべきものかを改めて認識しました。これからも、過去を学び、平和を考える行動を継続していきたいと思います。



山北めぐみ

①初めて

②沖縄での平和行動に労働組合の一員として参加し、戦跡見学や地元の方の講話を通じて、戦争の悲惨さと平和の尊さを実感しました。組合として「安心して働き、暮らせる社会」の実現には、平和の土台が不可欠であると改めて感じました。旧海軍司令部壕では、戦時下で命を削った人々の思いに触れ、今の労働環境の意義にも思いを馳せました。平和の実現には対話と行動が重要であり、労働者として、地域や職場から声を上げ続けていく必要があると強く感じました。



秋元正道

①初めて

②かつて琉球王国と呼ばれていたころは、武力ではなく外交力により安全を保っていた沖縄が、最前線として過酷な状況に陥り、今まで守ってきたものを失うことになったのは何とも皮肉なことだと思いました。安全保障に正解は無く、武力により国を守る国は多いが、実際に紛争になってみないとそれが抑止力になっているかは分からないというのが印象深かったです。今回様々な戦跡を巡り、戦時中の沖縄の痛ましい体験を見聞きすることで、今の私たちの生活がいかに幸せであるかを改めて確認することができました。悲惨な過去を辿った沖縄から平和を呼びかけることで、日本中、そして世界へ戦争が起きない・起こさないという想いが広がってほしいと切に思いました。



秋山泰余

①初めて

②連合埼玉青年委員会の一員として「平和行動in沖縄」に参加し、貴重な体験をさせていただきました。沖縄戦については漠然と知っていたものの、太平洋戦争については広島、長崎の原爆の印象が強く、詳細までは理解していませんでした。ひめゆりの塔や平和祈念公園、旧海軍司令部壕を訪れ、当時のまま残る資料や証言映像を自分の目で見ることで、戦争が確かに現実にあった出来事なのだと実感しました。小さな沖縄の地に、これほど多くの戦争の痕跡があることに驚き、同時に戦争の悲惨さと平和の尊さを強く感じました。原爆だけでなく、沖縄戦を含めたすべての戦争の記憶を風化させてはならないと感じた、心に深く残る3日間でした。



川田寛介

①初めて

②今回、初めて平和行動に参加させていただきました。訪れた場所の多くは以前、修学旅行でも訪れた場所でしたが、恥ずかしながら時間の経過とともにどういったところで、どういった事が起きた場所なのか忘れかけていましたが、再訪により記憶を甦らせることができました。「戦争は忘れない記憶だが、決して忘れてはならない記憶だ」という現地ガイドの方の言葉が深く心に残っております。80年の節目の年に、改めて戦争の悲惨さを痛感することになりました。



藤野雅也

①初めて

②沖縄の戦跡を巡るフィールドワークは、戦争の現実を深く心に刻む体験でした。南風原陸軍病院の壕では、暗闇と湿気の中で負傷兵がうめき声を上げていることを考えたら、その過酷さに胸が詰まりました。平和記念公園の「平和の礎」に並ぶ無数の名前に、一人ひとりに家族や夢があったことの重みを感じます。ひめゆりの塔では、私たちと変わらない少女たちが犠牲になった悲劇に言葉を失いました。現地で肌で感じた命の尊さと平和の脆さ。この記憶を風化させず、平和な未来を築くために何ができるか、真摯に考え続けていきたいです。



家城悠伍

①初めて

②労組役員になり10年以上経ちますが、恥ずかしながら、平和の取り組み全般にあまり参加したことはありませんでした。背景には、労働条件の取り組みに専念して欲しいという組合員からの声があったことにあります。そんな折、平和行動in沖縄に参加し、考えを改める必要性を感じました。沖縄では、特に地上戦による惨状を見聞しました。当然ですが、そのような中では、労働条件云々を言う場合でなく、生きることが難しい状況です。労働条件の前に平和が必要です。私の思いです。労組が平和に取り組む必要はあると思います。労働条件と同じで、訴え続けなければ後退してしまうし、労組以外にこれほど大規模に志をもって取り組める組織は他にないと思うからです。労組役員として、組合員の声は大切です。しかし、ときにはリーダーとして、組合員に必要性を説いて、理解してもらい、取り組みを行っていくことも重要であると思いました。



堀越弘宣

①初めて

②今回平和行動に参加し、今まで自分がいかに戦争を他人事としていたかを思い知りました。特にひめゆりの塔では、10代の女の子たちが暗くて汚く臭い防空壕の中で必死に看病し、生きようとしていた姿は本当に直視できない程壮絶なものでした。展示を見ていて、亡くなった私の祖母を思い出しました。祖母は群馬出身なのですが、学生時代に急に卒業を宣言されて和光市の埼玉病院に来院したそうです。当時埼玉病院は、戦争で傷ついた日本兵が運び込まれる病院でした。そこで病人の看護をしていたそうです。当時の事を聞いてもいつも「忘れちゃったわ」と言っていたのですが、今ならその理由が分かった気がします。おそらく壮絶過ぎて話したくなかったんだと思います。自分が生まれ育った国で昔起きた事を知るのは貴重な経験でしたし、戦争を繰り返してはいけないという事を心から思えました。



渡邊友香里

ジェンダー平等・多様性推進



「トップセミナー」を開催



挨拶をする大谷事務局長



講師: 茅根 真由美 氏

連合は、男女平等参画の重要性について、組織内の合意形成をはかり、女性活躍の機運を高め推進するため、2004年より6月を「男女平等月間」と設定し取り組んでおります。例年「トップセミナー」は、対象を労働組合役員に限定し、トップの男女平等への意識を変革するテーマを取り上げて開催しています。

今回は、6月18日(水)あけぼのビル501会議室にて、ジェンダー平等・多様性推進「トップセミナー」を開催し、9構成組織から28名、事務局4名の総勢32名が参加しました。

当セミナーでは、かやね社会保険労務士事務所 代表の特定社会保険労務士 茅根 真由美氏をお招きし、「女性活躍セミナー ～社会的背景に基づく法制度の対応、および今後の職場環境の改善策～」をテーマに、ご講義

いただきました。前半の講義では、女性活躍推進に関する背景から女性活躍推進法の概要と改正ポイントの知識定着を図りました。

後半の講義では、職場環境の整備策として、①柔軟な働き方の推進、②ハラスメント防止対策、③女性のライフキャリア支援について、前半の講義の知識をもとに、自己理解度を高める参加型のプロセスを組み込んだ実践演習をしました。

受講された方からは、「気づきを得られた」、「男性目線であった」と理解度を深めた意見や感想をいただきました。今後も組合活動に活かせるセミナーを企画開催していきます。来年度もご参加のほどよろしくお願いいたします。



講義の様子



埼玉労働局に対して 「男女平等参画社会」の実現に向けた要請を実施

連合埼玉は、性別・年齢・国籍・障害の有無・就労形態などにかかわらず、誰もが多様性を認め合い、互いに支え合うことのできる「男女平等参画社会」の実現をめざして取り組んでいます。

7月9日(水)には埼玉労働局に対し、「男女平等参画社会の実現に向けた要請」をおこないました。当日は、ジェンダー平等・多様性推進委員会 鈴木委員長(連合埼玉副会長)から、埼玉労働局の雇用環境・均等室総務課総務企画官 八巻 氏へ要請書を手渡し、その後、意見交換をおこないました。

主な要請項目は、以下のとおりとなります。

- ①ハローワークの窓口業務の多くを担う任期付任用職員をはじめとする臨時職員・非常勤職員等の雇用安定と処遇改善
- ②女性活躍推進法にもとづく一般事業主行動策定のための支援、「男女の賃金の差異」の実態把握、男女間の賃金格差の要因分析、是正に向けた取り組みの

促進・定着

- ③カスタマーハラスメント、求職者へのセクシャルハラスメント対策についての事業主への周知

また、前記「男女平等参画社会の実現に向けた要請」のほか、就職差別をはじめ、企業関係団体などに対し、あらゆる就職差別の撤廃に向けた人権教育や、啓発活動の一層の取り組み強化の徹底を図る「就職差別撤廃に要する要請」もおこないました。



要請書を手渡す鈴木委員長

第27回参議院議員選挙 連合埼玉推薦候補2名が当選を果たす！

7月20日(日)に第27回参議院議員選挙の投開票がおこなわれ、埼玉選挙区は4名の枠に対して15名が立候補する大混戦となりましたが、連合埼玉が推薦した2名の候補者は激戦を制し、見事当選を果たしましたので報告いたします。



当選報告を受けての万歳三唱



連合埼玉へ当選報告の訪問をいただきました



出陣式で挨拶をする連合埼玉大谷事務局長

第27回参議院議員選挙開票結果

■埼玉選挙区

	男性	女性	合計
有権者数	3,034,433	3,092,955	6,127,388
投票者数	1,751,489	1,733,801	3,485,290
投票率	57.72%	56.06%	56.88%

(届け出順)

候補者名	年齢	政党	新旧	得票数	得票率	当落
江原 久美子	54	国民民主党	新	535,706	15.7%	当選
津村 大作	51	日本改革党	新	7,992	0.2%	落選
伊藤 岳	65	日本共産党	現	227,488	6.7%	落選
矢倉 克夫	50	公明党	現	441,613	12.9%	落選
武藤 かず子	43	チームみらい	新	83,957	2.5%	落選
増山 優花	42	日本誠真会	新	25,312	0.7%	落選
高井 環	54	社会民主党	新	50,335	1.5%	落選
山田 信一	54	NHK党	新	26,469	0.8%	落選
桜井 奈々絵	50	れいわ新選組	新	198,936	5.8%	落選
熊谷 裕人	63	立憲民主党	現	480,330	14.1%	当選
龍野 真由美	52	日本維新の会	新	150,475	4.4%	落選
古川 俊治	62	自由民主党	現	573,114	16.8%	当選
大津 力	53	参政党	新	465,278	13.6%	当選
斎藤 嘉英	52	無所属	新	19,190	0.6%	落選
石濱 哲信	74	日本保守党	新	129,130	3.8%	落選

■比例代表

		投票総数	得票率	政党等の得票数	名簿登録者の得票数
立憲民主党	埼玉県	437,993.530	12.8%	382,062.885	55,930.645
	全国	7,397,457.498	12.5%	6,047,006.397	1,350,451.101
国民民主党	埼玉県	501,953.396	14.6%	442,449.043	59,504.353
	全国	7,620,492.652	12.8%	6,424,040.763	1,196,451.889

■比例区組織内候補者(名簿登録者の得票数、得票率)

候補者名		年齢	埼玉県		全国		当落
			得票数	政党内得票率	得票数	政党内得票率	
立憲民主党	小沢 雅仁	59	4,204	7.51%	99,963	7.40%	当選
	岸 真紀子	49	2,390,097	4.27%	147,648.519	10.93%	当選
	郡山 玲	51	2,744	4.90%	94,610	7.01%	当選
	水岡 俊一	69	428	0.76%	116,142	8.60%	当選
	森屋 隆	58	5,263.956	9.41%	74,495.751	5.52%	落選
	吉川 沙織	48	4,602	8.22%	116,314	8.61%	当選
国民民主党	田村 麻美	49	10,655	17.91%	205,331	17.16%	当選
	磯崎 哲史	56	9,122	15.33%	181,976	15.21%	当選
	平戸 航太	38	3,222	5.41%	92,137	7.70%	当選
	浜野 喜史	64	6,411	10.77%	193,599	16.18%	当選

連合:2025春季生活闘争 第7回(最終)回答集計結果(抜粋)



昨年を上回る賃上げ!

連合は2025春季生活闘争の第7回回答集計を7月3日(木)に公表しました。

【概要】

- 月例賃金改善(定昇維持含む)を要求した5,599組合中5,475組合が妥結済み(97.8%)。うち賃金改善分獲得が明らかな組合は3,189組合・58.2%で、比較可能な2013闘争以降では組合数・割合とも最も高い。
- 平均賃金方式で回答を引き出した5,162組合の加重平均(規模計)は **16,356円・5.25%** (昨年同時期比1,075円増・0.15ポイント増)となった。1991年(5.66%)以来33年ぶりの5%超えであった昨年を上回った。300人未満の中小組合(3,677組合)は、**12,361円・4.65%** (同1,003円・0.20ポイント増)であった。規模計と中小組合のいずれも昨年同時期を上回っている。
- 賃上げ分が明確にわかる3,594組合の賃上げ分は11,727円・3.70%(同1,033円増・0.14ポイント増)、うち300人未満の中小組合2,285組合の加重平均は9,468円・3.49%(同1,212円増・0.33ポイント増)で、賃上げ分が明確にわかる組合の集計を開始した2015闘争以降の最終集計結果と比べ、最も高い。
- 有期・短時間・契約等労働者の賃上げ額は、加重平均で、時給 **66.98円** (同4.28円増)、昨年同時期を上回った。時給の引上げ率(概算)は **5.81%** で、一般組合員(平均賃金方式)を上回っている。

1. 賃金引上げ(月例賃金) <第7回回答(集計)結果(7月1日集計・7月3日公表)>

①平均賃金方式(集計組合員数による加重平均)

平均賃金方式		2025回答（2025年7月3日公表）			昨年対比	2024回答（2024年7月3日公表）		
		累計組合数	定昇相当込み賃上げ計			累計組合数	定昇相当込み賃上げ計	
		累計組合員数	額	率		累計組合員数	額	率
		5,162 組合 2,962,661 人	16,356 円	5.25 %	1,075 円 0.15 ポイント	5,284 組合 2,933,902 人	15,281 円	5.10 %
300人未満 計		3,677 組合 348,833 人	12,361 円	4.65 %	1,003 円 0.20 ポイント	3,816 組合 359,093 人	11,358 円	4.45 %
～99人		2,246 組合 95,790 人	10,922 円	4.36 %	1,296 円 0.38 ポイント	2,333 組合 97,385 人	9,626 円	3.98 %
100～299人		1,431 組合 253,043 人	12,909 円	4.76 %	905 円 0.14 ポイント	1,483 組合 261,708 人	12,004 円	4.62 %
300人以上 計		1,485 組合 2,613,828 人	16,920 円	5.33 %	1,046 円 0.14 ポイント	1,468 組合 2,574,809 人	15,874 円	5.19 %
300～999人		984 組合 526,998 人	14,835 円	5.08 %	803 円 0.10 ポイント	979 組合 528,881 人	14,032 円	4.98 %
1000人～		501 組合 2,086,830 人	17,451 円	5.39 %	1,089 円 0.15 ポイント	489 組合 2,045,928 人	16,362 円	5.24 %

※2025年と2024年で集計対象組合が異なるため、「定昇相当込み賃上げ計」の昨年対比は整合しない。

②有期・短時間・契約等労働者の賃上げ

時給	2025回答 (2025年7月3日公表)			昨年対比	2024回答 (2024年7月3日公表)		
	累計組合数 累計組合員数	賃上げ額・率	平均時給 (参考値)		累計組合数 累計組合員数	賃上げ額・率	平均時給 (参考値)
単純平均	384 組合	59.65 円 5.17 %	1,213.28 円	5.87 円 0.26 ポイント	386 組合	53.78 円 4.91 %	1,148.92 円
	861,305 人	66.98 円 5.81 %	1,219.70 円	4.28 円 0.07 ポイント	885,369 人	62.70 円 5.74 %	1,155.02 円
加重平均	127 組合	9,914 円	4.32 %	777 円	146 組合	9,137 円	4.23 %
	25,167 人	10,004 円	4.35 %	▲ 865 円	27,845 人	10,869 円	4.98 %

オルガナイザー研修会(実践編)を開催!

～組織化に関わる人材の裾野を広げる～

連合埼玉では「組織拡大プラン2030」の中で定めた「20万連合埼玉」の目標達成に向け、連合埼玉ならびに構成組織が主体的に取り組んでいくために、組合づくりを担う組織拡大実務者(オルガナイザー)の育成が重要と考えています。

組織化の必要性を理解し、各構成組織の役職員が組織化に必要な知識を学び、オルガナイザーを目指すきっかけづくりとなるよう、6月17日(火)に、実際の企業訪問をつうじた組織拡大の取り組みをおこないました。

当日はネット21各事務所(川越・久喜・熊谷)と連合埼玉の4会場に集合し、楠本組織委員会委員長の開会あいさつ後、参加者総勢23名が8班に分かれ、副事務局長やアドバイザーと一緒に訪問オルグをスタートしました。

各班とも自ら選定した企業を訪問し、取締役や人事総務担当者らと面会し、連合埼玉「労働相談ダイヤル」の状況説明や労務管理に関して情報交換をおこないました。直接の組織化につながる企業はなかったものの、今後につながる話など、再度オルグをおこなうき

かけを得ることが出来ました。訪問オルグ終了後、各会場をWebでつなぎ、結果報告をおこないました。

参加者から「オルグ活動は初めてであったが、今回経験したことから、今後につなげていきたい」「自分のいる産業とは異なる企業に訪問し、話を聞き産業は違うが共通する悩みがあることがわかった」などの報告がありました。各班からの報告をうけ、大谷事務局長より「連合埼玉組織拡大プラン2030は、皆さんの協力がなくては成しえない。組織化し組合員を増やすことは大事である。このような地道な活動をつうじて次へつなげていただきたい」と講評がありました。

引き続き、今回のオルグ活動のフォローをおこなうとともに、来年度以降の参加産別を増やしていく目標を掲げ終了しました。



楠本委員長

既卒3年以内及び34歳以下の 若者対象「就職面接会」

埼玉労働局と共催で開催



挨拶をする平尾会長



埼玉労働局 片淵局長

6月23日(月)に「既卒3年以内及び34歳以下の若者対象就職面接会」が、大宮ソニックシティにて開催されました。

連合埼玉は、2011年より埼玉労働局主催のもと、共催団体として、構成組織を通じ、新規求人の協力を組合より各企業に要請しております。

会場には製造業やサービス業など県内の企業を中心に116社がブースを出展され、そのうち「14社」は、連合埼玉推薦企業でした。参加した就職希望者(124名)は、興味のある企業のブースを訪ね、採用担当者から仕事の内容を真剣に聞いていました。

埼玉県労働委員会 マスコットキャラクター募集!

～あなたのアイデアを形にしてみませんか～

埼玉県労働委員会では、労働委員会の役割や活動内容について県民の皆様にもっと知っていただくために、労働委員会のイメージを分かりやすく伝えるPRキャラクターを募集しています。

下記の内容にて募集していますので、皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

1. 応募資格

県内在住・在勤・在学の方

2. 応募期間

令和7年7月1日(火)～8月31日(日)まで

3. 応募内容

- (1) マスコットキャラクターの名前と全身像のデザイン画
- (2) マスコットキャラクターの説明(由来や特徴、デザインに込めた思い等)

詳細は右のQRコードリンク先に記載がありますので、ご確認ください。



現在予定される8月の日程表です

8月		行事等	
		連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	金	①第9回四役・執行委員会(10:00～・13:00～/ときわ会館) ②RK産別協力会議(四役)(16:00～/ときわ会館)	第3回埼玉県最低賃金審議会(9:30～/労働局)
2日	土		連合関東ブロック連絡会「2025政策フォーラム」(13:00～/太田市学習文化センター)
3日	日		
4日	月	平和行動 in 広島(4～6日/広島市)	第4回埼玉県最低賃金審議会(9:30～/労働局)
5日	火		第5回埼玉県最低賃金審議会(9:30～/労働局)
6日	水		①埼玉県最低賃金審議会(予備日)(9:30～/労働局) ②第18回埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議(14:00～/WEB) ③川越・西入間地域協議会幹事会(18:00～/ネット21川越)
7日	木		①埼玉県最低賃金審議会(予備日)(9:30～/労働局) ②日本郵政グループ労働組合埼玉連絡協議会「第18回定期連絡総会」(13:00～/プリランテ武蔵野) ③第7回秩父地域協議会幹事会(18:00～/秩父勤労者会館) ④第5回熊谷・深谷・寄居地域協議会幹事会(18:15～/秩父鉄道労働組合会館)
8日	金	平和行動in長崎(8～10日/長崎市)	中央労金秩父支店「産別会員要請行動」(17:00～/三菱マテリアル秩父)
9日	土		
10日	日		
11日	月		
12日	火	↑ 夏期休暇 ↓	
13日	水		
14日	木		
15日	金		
16日	土		
17日	日		
18日	月	女性のためのステップアップセミナー(初級編)(14:30～/ときわ会館)	九都県市政策担当者会議(16:00～/WEB)
19日	火		
20日	水	ジェンダー平等・多様性推進「多様性推進セミナー」(14:00～/あけぼのビル)	
21日	木		
22日	金		連合寄附講座担当者会議(13:30～/WEB)
23日	土		埼玉県電力総連「第45回定時大会」(9:30～/ときわ会館)
24日	日		
25日	月	地協再編検討委員会(15:00～/あけぼのビル)	
26日	火	連合埼玉「ろうきん」×「こくみん共済 coop」合同セミナー(13:30～/さいたま共済会館)	
27日	水	組合役員教育プログラム・スキルアップ講座⑤(14:00～/あけぼのビル)	
28日	木		①埼玉労福協「第3回理事会」(10:00～/ときわ会館) ②埼玉労福協「福祉フォーラム」(13:30～/ときわ会館)
29日	金		県央地域協議会第6回幹事会(18:30～/労金上尾支店)
30日	土	①組合役員教育プログラム・スキルアップ講座⑥(10:00～/あけぼのビル) ②災害ボランティア救援隊「隊員研修・中級」(13:30～/ときわ会館)	
31日	日		八潮市長選挙・八潮市議会議員選挙告示日

こくみん共済 NEWS

お住まいの 地盤診断サービス

無料
登録
不要



地震の揺れ・液状化・浸水の
可能性など、すぐわかる



こくみん共済 coop
公式キャラクター ビットくん

たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済

全国市町村共済生活協同組合連合会 coop

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。



◆第27回参議院議員通常選挙を終えて!

○投・開票結果について

7月3日に公示された「第27回参議院議員通常選挙」は、125の議席をめぐる17日間にわたる選挙戦が繰り広げられ、7月20日投・開票日に各党の獲得議席が確定しました。

政権与党である自民党・公明党は、過半数の議席を維持できず、衆議院に続き、参議院でも少数与党となりました。衆議院・参議院ともに少数与党となるのは、戦後初めての結果となりました。具体的には、自民党は改選52議席から39に激減、公明党は改選14議席から8に減少、合計では47議席に留まり、非改選75と合わせても参議院の過半数125を割り込んだ結果となりました。

一方、野党については、国民民主党が改選4議席から17に、改選1議席だった参政党が14を獲得するなど、ともに大きく躍進しました。また、政治団体「チームみらい」も、公職選挙法が定める政党要件を満たす得票率2%の得票を確保し、全国比例で当選を決める結果となってしまいました。

【政党別獲得議席数】

党派	自民	公明	立憲	維新	国民	共産	れいわ	参政	保守	社民	N党	再生	みらい	無他	合計
獲得議席	39	8	22	7	17	3	3	14	2	1	0	0	1	8	125
(選挙区)	27	4	15	3	10	1	0	7	0	0	0	0	0	8	75
(比例)	12	4	7	4	7	2	3	7	2	1	0	0	1	0	50
改選前	52	14	22	6	4	7	2	1	0	1	1	0	0	7	117

【年代別投票率】

年代	1位	2位	3位	4位	5位
10代	国民 25.3%	参政 23.3%	自民 11.0%	立憲 6.8%	維新 6.0%
20代	国民 26.7%	参政 23.1%	自民 10.3%	保守 6.6%	立憲 6.0%
30代	参政 22.4%	国民 18.8%	自民 11.4%	れいわ 8.0%	保守 7.2%
40代	参政 18.5%	自民 15.0%	国民 13.9%	れいわ 11.7%	立憲 8.6%
50代	自民 18.8%	参政 15.3%	立憲 11.9%	国民 11.3%	れいわ 10.5%
60代	自民 24.1%	立憲 15.9%	参政 11.8%	公明 8.3%	国民 8.2%
70代	自民 32.4%	立憲 20.3%	公明 9.1%	共産 7.3%	維新 6.8%

*JNN出口調査より

今次選挙に対する有権者の関心は高く、自公政権、そして現在の政治そのものへの不満が有権者の投票行動に表れた結果であったと受け止めています。

連合埼玉は、今次選挙で「与党改選過半数割れ」を必達目標に臨み、それを越える「参議院での与党過半数割れ」の結果を得るとともに、世論もその方向に大きく動いたと感じています。しかし、若年層の投票率が延びた一方で、新興政党が躍進したことは、今後課題を残す結果になってしまったと受け止めています。

○投票率について

今次選挙の投票率(選挙区選挙)は全ての都道府県で前回選挙を上回り、全国平均で58.51%となり、前回よりも6.46ポイント上回る結果となりました。また、埼玉県でも56.88%で、6.63ポイント上回る結果となりました。

各都道府県別で比較してみると、投票率の上昇幅が最も大きかったのは、石川県の12.28ポイント増、熊本県の9.91ポイント増となっています。

また、投票率が最も高かったのは山形県の62.55%、最も低かったのは高知県と合区選挙区の徳島県の50.48%となっています。

埼玉県の投票率は前回と比べて上昇したものの、全国平均には届いておらず、課題が残る結果となってしまいました。

【選挙区選挙における投票率】

	全国	埼玉県	東京都	千葉県	神奈川県
第27回	58.51%	56.88%	61.53%	55.74%	60.30%
第26回	52.05%	50.25%	56.55%	50.01%	54.51%
第25回	54.70%	51.94%	57.50%	52.02%	55.46%

○さいごに

選挙で当選するには、三バン(地盤・看板・カバン)が必要と良く言われています。選挙の三バンとは、選挙の当選に必要な要素の比喩表現で使われており、具体的には、①地盤:組織力 ②看板:知名度 ③カバン:資金力と言われています。

しかし、これからは上記に加え、「ネット地盤」も必要になってきます。無党派層の有権者が、投票先を決める上でSNSの影響は大きく、候補者自身が発信した動画よりもインフルエンサーがまとめた過去の発言などを参考にする有権者が多くなったとも言われています。

今後は、組織・候補者それぞれがSNS活用の必要性について理解し、今次選挙におけるSNS活用方法を分析し、今後活かしていくことが重要と考えています。

最後に、この選挙に携わっていただきました、すべての皆様に感謝・御礼を申し上げます。

2025.7.22